

根源實紫

二 上の巻

9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8

根源

實紫



上卷

笠亭仙果作
梅蝶樓國貞画

泉
喜
太
板



初編 在のまゝで實事なりとも興あれば虚談を加ふる然ハ
此処に實紫の名ありあゝ其父の話とさく程

上より下の あり一度の顔と出さば是枝葉の爲幹にけり
半石山寺に 杵より柄の太きに似れどつき趣向と餅六

始り爲時の物 つと團子十五夜月見はさく又三編の
語せんとさるまでハ 末小段一宣孝死して中宮に式部

跡方もあき空と 奉給の顔末貞操曇らぬ婦の龜鑑 悲し以所も更なる

それと其人物は古書ハ 舊記照してあるは實と
出さる人々行状性質 録して御覽備へん
雜史記録家集を人同 先此編の弘微殿
聞とありけんか 有りえとの推 のある軒端

量話其よ世継の物語此二編
あとも猶尽き是は榮花の物語の

笠亭仙果述



嘉永四年辛亥臘月

初春の御年玉もあへく
やと我身ろく記して序と次
露打灌であら
空の時雨れ
忍衣艸
ふいつる



實紫の二編

華山院天皇

新千載集
弘微殿女御
かみきつる秋
唐のふくをきき
たきまつて



弘微殿
女御
祇子
霊魂

あふ世の
人々
物をと
ちや唐
かきこの
そふつ
り





ふさぎの
ことわざ
かじのえと
ひよこわ
あつたか
じやまき
やまざね
おし
ごちよう
ありあ
むらり
こと人
うろ
る

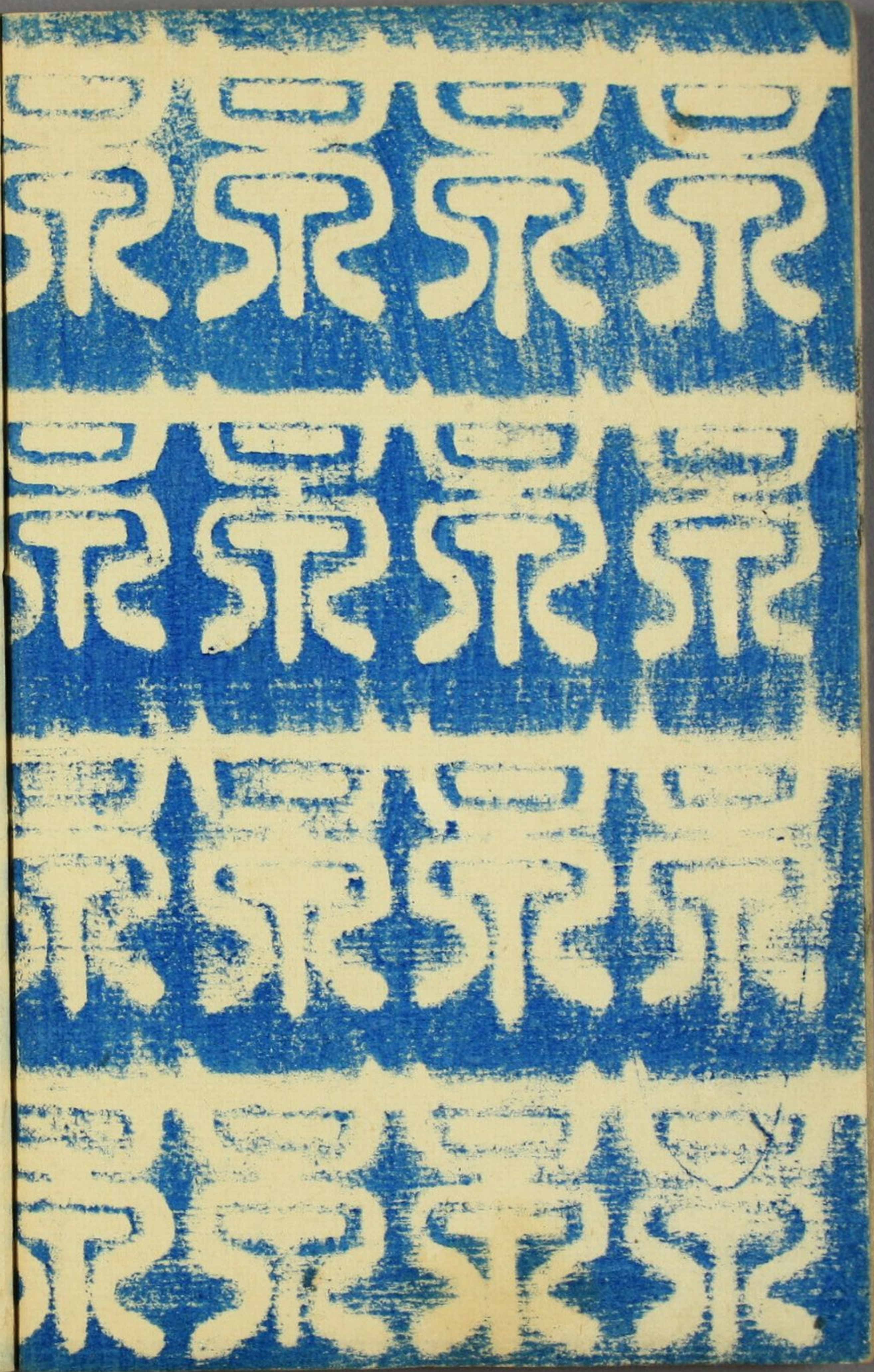
二の
ま

必ふしであひ
 へばよりと
 りのぐらに
 ゐとききせ
 あひまそ
 こそと
 おれ止
 一ふの姚みきりの
 女所のことろ
 ざふらひどろよく
 ありあはすわとく
 ありせともとれあは
 とききあてあふ
 とそそきぬ
 ちききに
 けり人

さあ、いよいよ
まじりの
らちくお
もろく色
まじて
あかさん
ト、ちやうほ
きさまきこと
くらんわら
とめがねま
えれる月と
ぐてり又

の
み
明

[illegible][illegible]



曲亭馬 翠竹

新編金瓶梅全輯

十篇大尾

為永春水作

黃金水大盡盃

柳亭種彥作

琴聲義人錄

笠亭仙果作

根源實業

同

小女郎知怨芋環

三篇大尾

柳下亭種員作

兒雷也豪傑譚

柳煙亭種久作

假名

反古

一休草紙

根^え源^{げん}實^み紫^{むらさき}

二
下の巻



[illegible]

周
画

似采化

次子
笑也

修志

六の
すれ



泉
喜太
板

[illegible]

かどへあつて入るのりやう
つとまらぐとめいさく
小ぢやーかやもおち
くりはり

み
さうふ
わくへ
きんせ
ろく紙子
きのこの
ひつけ
下もまが
さえくりつ
日ごとくあまご
のつむねむか
つ。あつのも
びいてありあけ
そらとぎ
ドク
おれつき
のつたえ
とも

[illegible]

○帳子
すゝみ
あて
こきでん
かんり
いふふ
とらふ

〇低手
 やうか
 ずひを
 おいて
 こきどへ
 かん
 こまふ
 そろろ

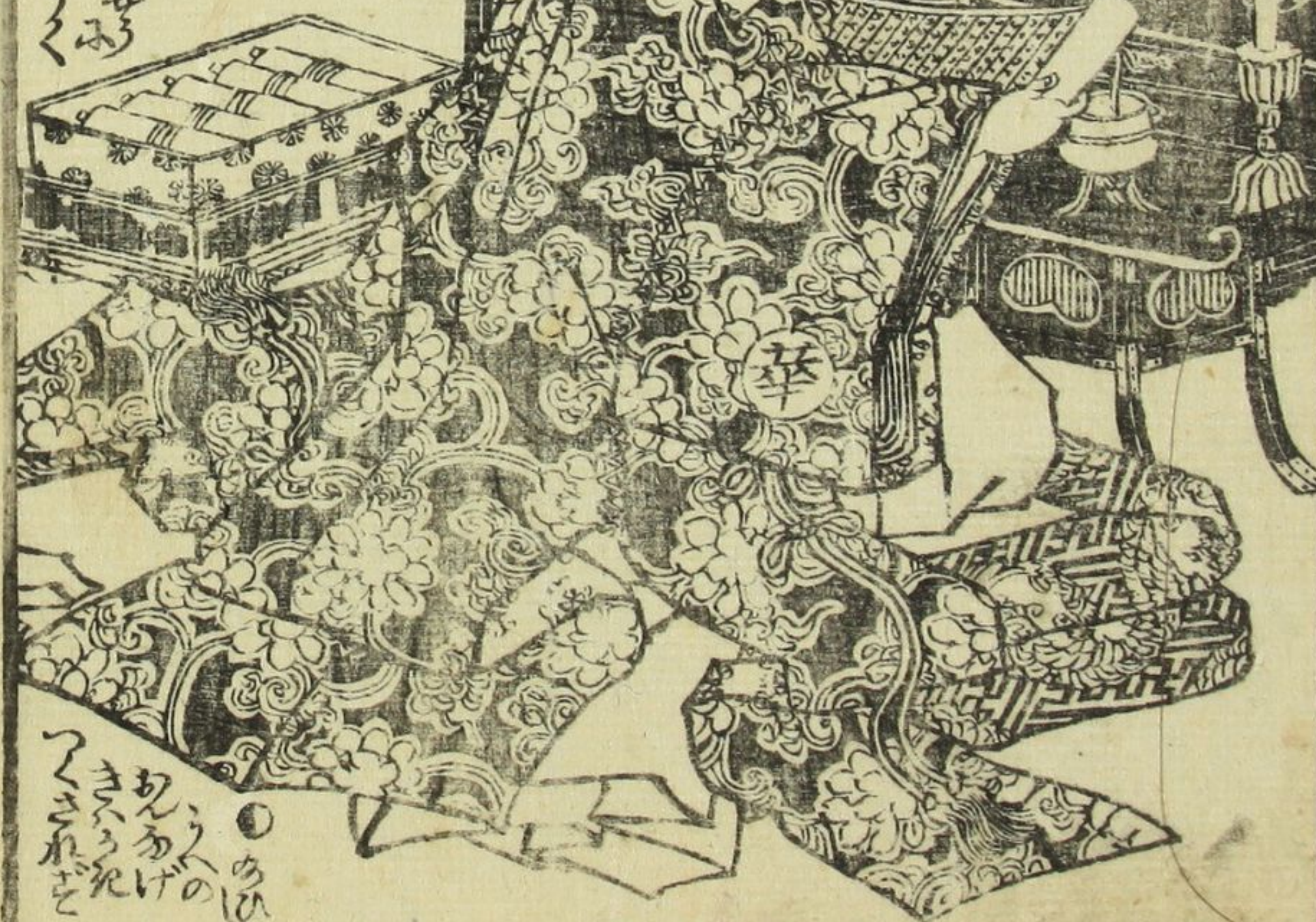
低

江戸
 文政
 三年
 八月
 八日

今更なるわびと云ふが
 そととてあふのるひもあ
 だのふふあふつる
 まつるひとくも
 こそき
 ふるひの
 是れあふに
 けり

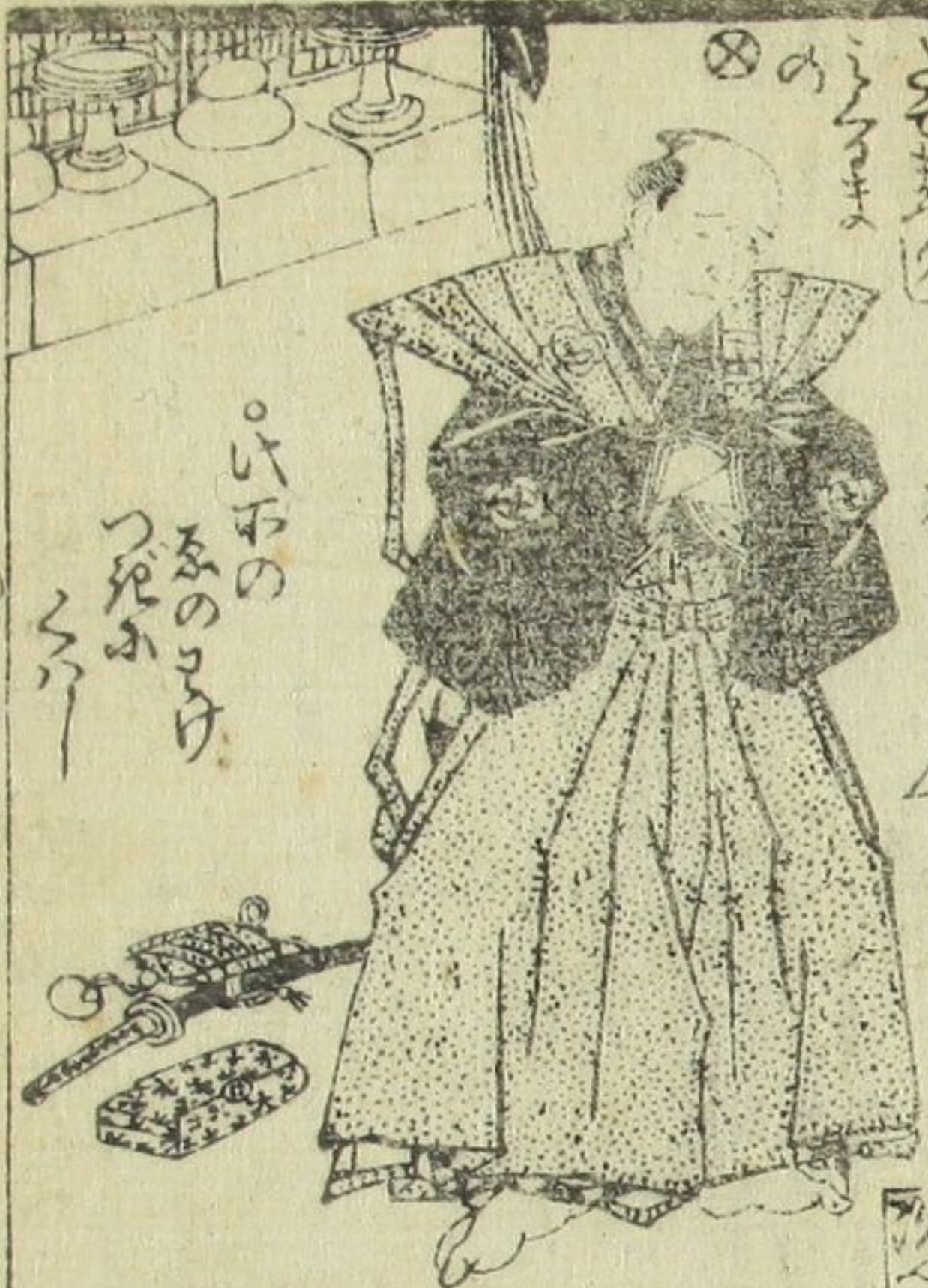


田
イ
母
子



●あひ
うへの
おんあけ
きろく死
つくされど

あはれをいふ
つねよりものまじ
くはれものぞま
たまらねどえと
いふあもくち
やうそのよは
よものちどくも
わらばあそ
ころんのかん
そふととあめ
やうのええと
是てあました
て父大かぢん
あきづうとのぞ
とてまうし



いすの
ふのうけ
つたふ

(X) おも
よう
おもまき
おもあ
おもあ
おもあ
おもあ
おもあ
おもあ
おもあ
おもあ

つゝもいふれ
ききもあらうてん
どもとちどのぢうら
かやいぶいぬひでまゆ
さぐくくくえんから地あも
こまのめと
あゝぬ
さく
のこ
まふ
むいふ
あつき
のちねさうあ
ひききこのりの
そこのまこ
どくふよと
たつとゑこそ
くえぬゆつれ
つゆえあもといひま
ぶむきひらねさうの
そのたえまてあ
十月のつゝあちの日の
そののどりびあまけと
むとくふとせあひぬ大ゆんを
そとめまぬくせあひぬ大ゆんを
あゝあはきハあもさうありさうどハ
あゝまゝさうありさういさえり
さあひみちちもつさういさえりさ
あゝらと

ひさありふ
あやめがき
のちとわく
こふんき
よそあを
おびてぞ
あら
うぬ
あきざ
とりつ
よぞも
うち
あるは
ねば
あぐ
とま
けり
おと
あえ
いさ
のりめ
しき
んき
きたりと
ても

五上へ

ふかくまを
あそびてあそ
ぶひさうく
あもらあもら
またあもらあ
あせうへん



まるごと
 わんぱく
 おはきあう
 ああさあつけど
 さうあうふはあ
 はさああらと
 わづまこやく
 かさうつてま
 りきもわり
 あの京ふせあ
 そそけのうーまちといふらう也
 ありまどうんぞあおわえむ
 われどろまをまつきのめのごさへふ
 ひやうごうちやうともいひだ
 おおのものぞうごひいてまゐりけ

[illegible]

[illegible]

Top right text (vertical):
 八景の
 名所
 八景
 名所
 八景
 名所

Right side text (vertical):
 八景
 名所
 八景
 名所
 八景
 名所

Left side text (vertical):
 八景
 名所
 八景
 名所
 八景
 名所

Bottom left text (vertical):
 八景
 名所
 八景
 名所
 八景
 名所

Center banner text (vertical):
 八景
 名所
 八景
 名所
 八景
 名所

卷之十一

72

つねに





種彦作

園貞画

根源

夢窓

甘美子

武彦
源氏

